

アルゼンチンアリ対策 広域行政協議会について

アルゼンチンアリは平成17年に特定外来生物に指定され、防除については国の責任において行うこととされていますが、残念なことに完全な駆除方法が確立されていないのが現状です。

平成18年3月、アルゼンチンアリの被害を受けている、広島県、山口県及び関係市では、広域行政協議会を設置し、アルゼンチンアリ対策について、自治体が連携、推進してきました。

具体的には、アリの被害実態を調査、情報を共有化するとともに、防除試験を行い、また、国に対しては、防除実施等について要望してきました。

平成20年4月、環境省により「生物多様性保全推進支援事業」が創設されました。

この中には外来生物防除対策支援もあり、協議会では国の事業採択を受け、同年10月に、廿日市市、大竹市、岩国市及び柳井市の一定区域で、住民ボランティア参加による、「地域ぐるみの防除活動」をモデル的に取り組んだところでした。

取組では、協議会で購入した薬剤(ベイト(餌)剤等)を、住民の皆さんの協力により、区域内の住宅地や道路等に設置、アルゼンチンアリに巣まで運んでもらう方法等で、アリを巣ごと退治することを目指しました。

防除活動の例(廿日市市の場合)

時刻	10月6日 1日目	10月7日 2日目	10月8日 3日目
0:00			
2:00			
4:00			
6:00			
8:00			
10:00			
12:00			
14:00			
16:00	設置	回収・設置	回収
18:00			
20:00			
22:00			
24:00			

市別の実施状況

	実施地区名	対象世帯数
廿日市市	地御前一丁目(扇園地区)	約230
大竹市	南栄三丁目自治会	約280
岩国市	黒磯町二丁目(一部)	約100
柳井市	馬皿地区(一部)	約90

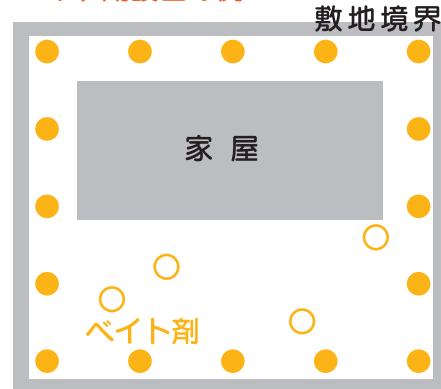
ベイト剤



液体(有効成分:ホウ酸)と
顆粒(有効成分:ヒドラメチルノン)の
2種類のベイト剤を使用



ベイト剤設置の例



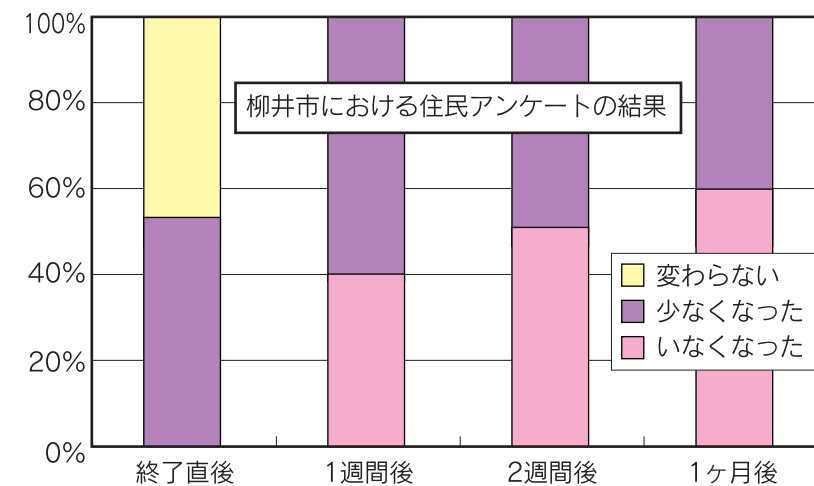
防除活動は、予め配布したベイト剤を、自己の住宅地内に設置、翌日(24時間後)に交換、翌々日に撤去するという方法で行いました。また、道路等の公共の場所については、住民ボランティアの他に、市職員や委託した専門業者によっても行っています。



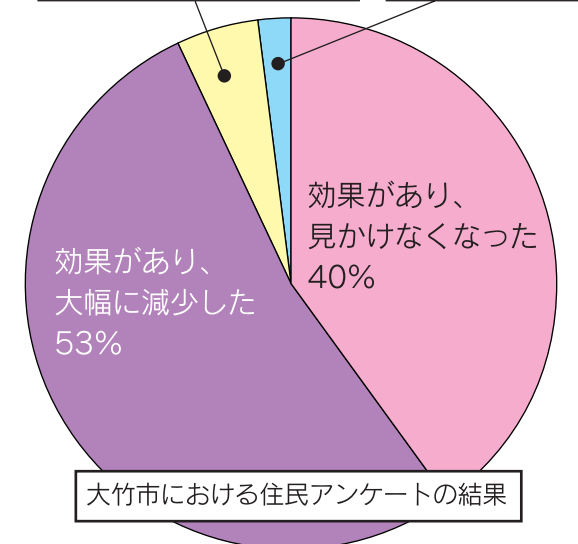
大竹市では、遅効性の液剤を、一定期間内で散布してもらい、併せてベイト剤の設置を行いました。

なお、参加された住民の方に、防除の効果について、アンケートによる回答をお願いしています。これら取組の結果、完全な駆除までにはいたらなかったものの、どの区域においても一定の効果をおこすことができました。

円グラフは、大竹市の住民アンケートの結果です。防除1ヶ月後の感想として、9割以上の方が「効果があった」と感じています。



直後は減少したが元の状態に戻った 5%
まったく効果がなかった 2%

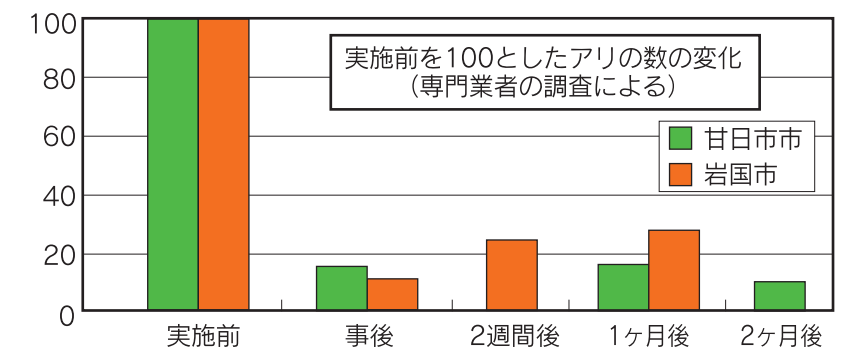


柳井市の住民アンケートでは、防除直後は「変わらない」「少なくなった」が半々でしたが、その後、「少なくなった」「いなくなった」が増えています。

住民アンケートの他にも、専門業者により、アルゼンチンアリの数を調査しました。実施区域の一定箇所において、ショ糖ベイトトラップ(ショ糖水を脱脂綿に含ませたもの)に集まるアリの数を比較することで、防除の効果判定をしています。



ショ糖ベイトトラップに集まるアルゼンチンアリ



調査の結果、どの区域においても、実施直後は1割程度に減少しています。廿日市市と岩国市では、実施後期間を空けてアルゼンチンアリの数を測定しましたが、若干増加するものの、3割以内となっています。

協議会では、これらの結果を参考に、平成21年度も引き続きモデル防除活動を続けていくとともに、防除の手法について、被害を受けている皆様に広くお知らせしていくこととしています。

アルゼンチンアリ
対策広域行政協議会

広島県自然環境課	082(513)2933	山口県自然保護課	083(933)3050
廿日市市環境政策課	0829(30)9132	岩国市環境保全課	0827(29)5100
大竹市環境整備課	0827(52)5224	柳井市市民生活課	0820(22)2111